

(社) 日本原子力学会 標準委員会
発電炉専門部会 水化学管理分科会
第3回 PWR 化学分析作業会 議事要旨

【日時】 2008年9月1日 (月) 13:30~16:30

【場所】 日本原子力発電㈱ 第9会議室

【出席者】 (敬称略)

委員：水野<主査>，笠原<副主査>，大平<幹事>，梅原，大橋，佐藤，松浦
(塚本代理)
オブザーバー：久宗、芥川

【配布資料】

- P11WG3-1 第2回 PWR 化学分析作業会 議事要旨 (案)
- P11WG3-2 第3回水化学管理分科会討議内容
- P11WG3-3 共通関連事項の草案
- P11WG3-4 PWR 化学分析標準 (ほう素) 第3回分科会コメント反映版 (案)
- P11WG3-5 フル酸カリウム (KAP) の秤量値桁数およびほう素の分析範囲について

【議事要旨】

議事に先立ち、主査より委員7名中7名が出席しており、本会議が決議に必要な常定数を満足していることが報告された。

1) 人事について

大平幹事より、以下の委員および幹事の交代についての紹介があった。本人事については次回の水化学管理分科会で承認を得ることとする。

- ・委員交代 塚本委員から松浦委員
- ・幹事交代 大平幹事から芥川幹事

2) 前回作業会議事の承認

資料 P11WG3-1 により、前回の PWR 化学分析作業会 (第2回) の議事要旨 (案) が大平幹事より説明され、承認された。

3) 前回分科会での討議内容

資料 P11WG3-2 により、前回の水化学管理分科会 (第3回) での討議内容について笠原委員より説明があり、作業会における対応の進捗状況について確認した。

4) 共通関連事項

資料 P11WG3-3 により、前回の作業会での討議を受け改訂した共通関連事項の草案について水野主査から説明があり、一部修正のうえ次回の分科会に提出することで承認された。

- a) 分科会への提出版では「Ⅰ.作業方針」は削除する（「Ⅱ.共通関連事項」から記載）。
- b) ほう素分析対象の採取系統については、今後標準化を計画しているリチウムが、蒸気発生器の使用前検査（伝熱管漏洩確認）で実施する2次冷却材での測定も考慮していることから、現状の草案のとおり、1次冷却材とともに2次冷却材も残し分科会で審議して頂くこととした。
- c) その他、字句等を修正のうえ、分科会への提出前に幹事より各委員に配信することとした。

5) ほう素の分析手順（案）

資料 P11WG3-4、P11WG3-5 により、第3回の分科会コメントを反映したほう素の分析法について笠原委員より説明があり、特に分析範囲について議論した。資料の主な改訂箇所についても以下に記載する。

- a) ほう素の分析範囲が容量法と重量法とでそれぞれ 2700mg/L と 3000mg/L が設定されている件について、分析標準の策定にあたってはこの分析範囲は統一すべきとの認識で委員全員が一致した。このため、容量法においては、現在目安として提示されている全量ピペットの最小採取量の変更など、分析法に係わらず 3000mg/L に統一できる方法を分析精度も考慮して検討し、次回の分科会に提案する。
- b) 「KAP 標準液の濃度（NKAP）は有効数字5桁まで求める」との記載は削除する。
- c) ほう素分析の妨害物質となるアンモニアの分析法についても、リチウム、ヒドラジンと同様に記述する。
- d) pH は小数点第1位までの表記とする。
- e) 解説表 7-1 に示す試料採取量は目安値であるためその旨を明記する。

6) 今後の予定

a) 次回分科会への提出資料について

次回の第3回水化学管理分科会（9月26日）までに、本作業会の議論を踏まえてほう素の分析手順（案）の改訂を行なう。修正資料は委員に送付し、了解を得たのち分科会に提出する。

また、これと並行して、次の標準原案の作成対象としている「溶存水素」および「放射性よう素」の説明資料を準備する。本資料は水野主査で原案を作成し、委員のコメントにより精査する。

- b) 次回の作業会は10月10日（金）に日本原子力発電㈱で開催する。

以 上